

微睡む
滯留

Eclipsing

2024.

4.3-4.7

Wed Sun

11:00-17:00 土のみ 18:00迄

会場 | kumagusuku

橋爪

皓

佐

個展

Kosuke

Hashizume

Solo

Exhibition

微睡む 滞留

Eclipsing

橋爪皓佐
個展

2024.
4.3^{Wed-}
4.7^{Sun}
11:00-17:00
土日のみ 18:00迄

4
/ 6^{Sat}, 7^{Sun}

パフォーマンス

17:30-
—入場無料

「待つ」という行為はしばしば人間に過剰な繊細さや鈍感さを抱かせる。それがなんらかの要因によって、ふと消える瞬間に生まれる意識は、人間を時間という枠組みから解き放つ。その刹那、意識下に滞留する淀みは、驚くほどの素早さで、皮膚から、爪先から、眼差しから、そして言葉から。思いがけぬ色味となつて、滲みだす。

本展は、音楽家である橋爪皓佐による初の個展です。音楽という時間芸術を持つ枠組みを再定義するべく、擬似的な永遠性を持った「展示」という手法に挑みます。音・映像・文学によって構成される展示空間は、「鑑賞」という行為と「時間の流れ」の関係性を曖昧にさせる間の「待合室」として提示されます。あなたの意識に滞留する、記憶の焦げ付きと呼応しながら。

橋爪皓佐

Kosuke Hashizume

1984年愛知県生まれ、兵庫県出身。

音をシェアする空間の枠組みを再考・再構築することを主なテーマとし様々なメディアとの共有領域において、音楽的な技法を展開し、制作を行う。

ベルギー王立ブリュッセル音楽院、京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程作曲・指揮専攻(作曲)を、英国王立音楽大学大学院作曲科への短期派遣留学を経て修了。ギタリストとして、現代音楽を中心とした演奏活動を行う。また作曲家として室内楽を中心とした作曲委嘱を数多く受け、現代ギター社などから作品が出版されている。2018年に現代音楽アンサンブルの「ロゼッタ」を結成し、既存の枠組みを拡張するような公演制作や、定期的な作品公募を通じて国内外の多くの作曲家と協働を続けている。

そのほかに、2018年「トラベラー:まだ見ぬ地を踏むために」国立国際美術館、2022年「国際芸術祭あいち」塩見允枝子パフォーマンス作品「～音と詞と行為の時空～」にパフォーマーとして出演。2021年「のせでんアートライン 光と音と食の芸術祭」にインスタレーション作品を出展するなど、美術分野との横断領域でも作家・パフォーマーとして活動を行っている。

「野営地」メンバー。京都女子大学非常勤講師。

CD冊子

「微睡む滞留／橋爪皓佐」

会場にて先行発売 助成：アーツサポート関西

宣伝美術・冊子デザイン：大槻智央



kumagusuku

〒604-8805 京都市中京区壬生馬場町37-3

問い合わせ info@khashizume.info
詳細 https://khashizume.info



kumagusuku



Arts Support Kansai